

# 1981年



協会創立25周年を記念し、新劇訪中公演が16年ぶりに実現。「華岡青洲の妻」「ブンナよ、木からおりてこい」を上演した。北京での記者会見に臨む(左から)水上勉、杉村春子、千田是也の諸氏

—1981年4月5日 北京・国際倶楽部



中国科学院との交流を重視し、交流を深めた。盧嘉錫院長(左一)を歓迎する(左二から)井上靖会長、宮川寅雄理事長、水科篤郎、井口洋夫両常任理事

—1981年10月24日 東京



「中国の恐竜展」を東京、大阪、福岡で開催。「質、量ともに第一級」と言われた同展の参観者は、143万人に達した

—1981年7月 東京・国立科学博物館



「歴史と人間」と題して講演する司馬遼太郎氏

◎1月 「北京原人展」北九州展開

創立二十五周年を迎え、「中山王国文物展」、「南京博物院展」、「中国恐竜展」、古代史シンポジウムへの中国考古・古代史学者の参加等、記念すべき多彩な交流を行なった。特に新劇訪中公演は、六〇年以來三回目で、「四人組」時代に硬直化した中国演劇界に新鮮な刺激を与える交流となった。中国では宋慶齡名誉国交主席逝去、「四人組」裁判で判決、華国鋒党主席辞任、胡耀邦総書記が党主席就任。

△八一年の主な交流

幕。「中山王国文物展」議定書調印団(大軒順三、白土吾夫らの諸氏)訪中。当協会協力、松山善三プロダクション製作「万里長城・二千五百年の謎」TBS系列で放映。

◎2月 東京で第五回古代史シンポジウム「日中古代文化の接点を探る」開催。同シンポジウム参加のため中国社会科学院考古・古代史学者代表团(王仲殊団長、林甘泉副団長、胡厚宣、黃展岳、徐萍芳、劉永成、王世民、陳高華の諸氏)当協会、全日本空輸、朝日新聞社の共同招請で来日。

◎3月 中国人民対外友好協会代表团(王炳南団長、吳茂森、吳蔚然、阿不都拉熱衣木、韓炳培、李鉄民の諸氏)と中国文学芸術界連合会代表团(陽翰笙団長、陸石秘書長、李可染、鳳子、沈亜威、謙容、歐陽永華、王玉琢の諸氏)来日し、当協会創立二十五周年記念パーティーに出席。「中山王国文物展」東京国立博物館で開催、日本経済新聞社、当協会など主催、開幕式に三笠宮ご夫妻、同展代表团(孫軼青団長、路一、陳応祺、孫曉燕の諸氏)が出席。神戸、名古屋でも開催。「南京博

物院展」名古屋博物館で開催、当協会、名古屋市、中日新聞社など主催、開幕式に同展代表团(周兆瑜団長、周邨顧問、姚遷、宋伯胤、鄭哲、朱智貴の諸氏)が出席。大阪、東京でも開催。故宮博物院秘蔵の真珠宝飾品を「神戸ポートアイランド博覧会」に展示。于光遠中国社会科学院副院長、当協会と二十一世紀文化學術財団の招きで来日。團伊玖磨、淡島千景らの諸氏「音楽の旅はるか」取材で訪中。中国自転車選手沈金康氏が補装具取り付けのため来日。

◎4月 訪中公演日本新劇団(千田是也団長、杉村春子団長代理、水上勉、有吉佐和子両顧問、小澤栄太郎、森塚敏両副団長、阿部廣次、成井市郎、村岡久平、篠崎光正、石澤秀二、水谷内助義、高橋悦史、中野誠也、中村たつ、伊藤巴子、太地喜和子、楠本章介、古賀宏一、秦和夫の諸氏)ら、俳優座、文学座、青年座、仲間て編成した一行五十一名)訪中、北京、南京、上海で公演。熊本だけのこ会人形劇団訪中団(塘添巨男団長)訪中。日本「日中貿易史研究者」訪中団(三上次男団長、佐久間重男副団長、大庭脩秘書長、吉田章一郎、斯波義信、田村晃一、藤善真澄、佐々木達夫、松浦章の諸氏)訪中。為郷恒淳読売新聞社専務、白土吾夫氏ら「北京原人展」の成功を祝い訪中。

◎5月 「日本七宝作家秀作北京展」訪中(会田裕宣団長)訪中。日本「おりひめ」手織り北京展訪中団(上田光乃団長)訪中。司馬遼太郎氏一行(同



魯迅生誕百周年記念レセプションで、鄧穎超副委員長(中央)、廖承志副委員長(右二)を囲み、乾杯する于伶(右三)、劉厚生(右四)、白土吾夫(左四)、岩波雄二郎(右一)、辻井喬(左三)、宮本研(左二)、北村和夫(左一)の諸氏

—1981年9月23日 北京・北大大会堂



山本健吉氏を団長とする日本作家代表団が訪中、中国文学界と交流を深めた。(右から)井上ひさし、丸谷才一、上田三四二の諸氏

—1981年6月21日 北京・北海公園

文雄、山下直樹、戸室道子秘書の諸氏が訪中。日本「第一回中国書道研究会」訪中団(種谷扇舟団長、鈴木桐華、長揚石両副団長、飯島太久磨秘書長、中野曉秘書、網代澄亭、尾形鼎山、鬼頭墨峻、小伏小扇、七澤象聲、高橋静豪、田中竹園、中村雲龍、初見一雄、船本芳雲、百瀬大蕪、依田祥堂、渡辺寒鷗らの諸氏)訪中。圓城寺次郎氏一行(同行・久地岡榛雄、湯木義夫、木村美智子の諸氏)訪中。西山英雄氏一行が訪中。北京で日中共同編集『中国名菜集錦』(主婦の友社)刊行発表会を開催、白土吾夫氏出席。

◎9月 日中文化交流協会代表団(井上靖団長、井上ふみ、白土吾夫秘書長、岩波雄二郎、辻井喬、宮本研、北村和夫、佐藤純子、横川健の諸氏)訪中。日本書道家代表団(飯島春敬団長、梅舒適副団長、田中凍雲秘書長、木村美智子秘書、佐藤祐豪、岡野栄太郎、飯島敬芳、青木香流、稲村雲洞、尾崎蒼石の諸氏)訪中。日本民法・環境法学者訪中団(加藤一郎団長、野村好弘秘書長、山本寅之助、本井巽、吉岡進、椎木緑司、椎木タカ、西原道雄、浅野直人の諸氏)訪中。日本山岳協会チヨゴリ峰偵察隊(小西政継隊長)訪中。故宮博物院の彭炎副院長来日。

◎10月 日中文化交流協会代表団(宮川寅雄団長、宮川チトセ、長島健、加山又造、松村禎三らの諸氏)訪中。日本リハビリテーション福祉研究視察団(高山忠雄団長)訪中。盧嘉錫中国科学院院長歓迎パーティーを開催。

行、須田剋太、涌井昭治、横川健らの諸氏が訪中。日本鳥類研究者友好訪中団(川崎惟雄団長、柳沢紀夫、塚本洋三、高野昭、桂千恵子の諸氏)訪中。

◎6月 日本音楽家代表団(團伊玖磨団長、團和子、浅香淳、小島美子、服部公一、中村絃子、戸室道子秘書の諸氏)訪中。日本作家代表団(山本健吉団長、庄野英二、上田三四二、丸谷才一、竹西寛子、井上ひさし、佐藤純子秘書の諸氏)訪中。金原出版医学友好訪中団(金原秀雄団長、佐藤祥子秘書、榊田喜三郎、奥山和雄、木下真男、守屋繁雄、樋口欣一、西川清雄、小林行昌、小室三郎の諸氏)訪中。中国社会科学院法学視察団(韓幽桐団長、韓延竜、劉海年、黄明川、呂文忠の諸氏)来日。

◎7月 「中国の恐竜展」東京・国立科学博物館で開幕、当協会、朝日新聞社など主催、開幕式に常陸宮殿下、中国科学院代表団(郁文団長、周明鎮副団長、李秉枢、崔泰山、孫艾玲、葉祥奎、王存義、丁学泉の諸氏)出席。同展は大阪、福岡でも開催。「シルクロード音楽の旅 楽器編 遥かなる楽人たちの道」(民主音楽協会主催、当協会協力)公演団(洪道源団長)来日。日中文化交流シンポジウム「遣唐使時代の日本と中国」開催、当協会、太平洋学会、朝日新聞社主催、講師に中国社会科学院の熊德基、沙知、趙玉洲の諸氏が来日参加。

◎11月 日本出版代表団(服部敏幸団長・講談社社長、武内俊三副団長・雄鶏社社長、堀内末男集英社社長、杉村友一(文藝春秋)、雨宮良夫(旺文社)、角川歴彦角川書店専務、佐藤祥子秘書の諸氏)訪中。中国科学院土壤微生物生態・生物窒素固定考察団(張憲武団長、戴祥鵬、尹瑞齡の諸氏)来日。

◎12月 日本経済界代表団(山中宏団長・明治生命保険社長、山下静一顧問・経済同友会副代表幹事専務理事、諸井虔秩父セメント社長、孫工芳太郎東レ副社長、水野渡東京電力常務、末松謙一三井銀行常務、木村美智子秘書、松永有介の諸氏)訪中。

両国演劇界は六〇、六五年の訪中公演を機に、友好の堅い絆で結ばれていた。「四人組」時代、話劇界は大きな迫害を受け、その時期に訪中した千田是也氏や杉村春子氏は親しい友人に会えないことが多かった。その友人たちは、下放先で『人民日報』の報道記事に、千田氏や杉村氏の名を見つけ、日本の友人の中国を思う心に励まされたという。十六年ぶり三回目の新劇訪中公演は、日中演劇交流の新たな門出となった。大歓迎を受けた背景には、文革中も中国を訪ね、友人とのつながりを何とか保とうとした人々の努力があった。人と人とのつながりが文化交流の原型ならば、文革の十年間、交流の途絶はあっても、断絶はなかった。